



# Kasukabe

夏のジャズデイには欠かせない「ザ昭和歌謡団」。

## 男たちの思いが 一つにつながる ジャズデイが誕生

今では当たり前のように開催されているジャズデイかすかべ。7年前、1回目の開催に漕ぎつけるまでには、春日部のまちの男たちの熱い思いと苦労があった。

話は「三つの場所」でくすぶっていた男たちの思いに始まる。

一つ目は市内の楽器店。1999年頃だった。市内で建築会社を営み、トランペットを愛する成田孝満さんが、昭和楽器の北川房男さんに



毎回いろいろな演出で会場を沸かせる成田さん。

「ビッグバンドを作りたい。春日部でジャズを演奏する場所がほしい」と相談していた。

二つ目は2002年、商工会議所の会議室だ。商工会議所が中心となって運営する「春日部TMO(まちづくりを運営・管理する団体)」のメンバー、船岡克己さんや前澤初夫さんが「春日部駅周辺を中心市街地を活性化したい」と議論を交わしていた。



三つ目は2006年8月の初旬、春日部駅近くの老舗蕎麦屋しよまや巴屋の店内。ジャズが大好きで、自分の店の座敷で「お座敷ライブ」を開催していた店主の佐藤孝さんと、グラフィックデザイナーでレコード会社も持つ勝谷清一さんが熱弁をふるっていた。「座敷では限りがある。いろんなイベントをやつて春日部でジャズを広めたい」

三つの思いは人づてに伝わり、2006年8月末に一つになった。「ジャズで春日部ににぎわいをもたらそう!」

## 商店会役員に 一人二人会つて、協力を 呼びかける日々

思いが重なつてからの男たちの動きは早かった。出演者の交渉・手配は北川さんと勝谷さん。「やるからには、メインゲストは超一流のジャズ



プレイヤーを呼びたい」と出演者探しに奔走した。

地域のイベント開催には地元商店会の協力は不可欠だ。春日部駅周辺には三つの商店会がある。春日部TMOのメンバーはその各商店会の役員に会い、理解を求めた。初めは難色を示した店もあったが、徐々に理解を得ていった。



会場の設営は、春日部西口商店会連合会副会長の山崎正雄さんが買って出た。常設ステージがない頃は、そのたびに鉄パイプで組んでいた。ステージマネジメントは北川さん。「大音量では地域の住民の方に迷惑がかかる」と公園の周囲を回り、音量チェックに細心の注意を払った。

こうした彼らの熱い思いが実り、わずか3カ月後の11月、記念すべき第1回ジャズデイかすかべが開催された。会場はたくさんのお客でにぎわい、イベントは大成功を収めた。

## ジャズデイが 市民に笑顔をもたらし た活気をもたらし

7年経った今では、全国からジャズ好きのボランティアや出演者が来るようになった。お客さんも年を追うごとに増えている。

第1回から見に来ているという男性は、ジャズデイかすかべの大ファン。「住まいから歩いて行ける場所で、生のジャズ演奏が聴けるなんて最高ですね。青空の下でビールを飲みながら、まつたりとジャズを聴いていると幸せな気分」と笑う。

また、地域の三つの商店会は、ジャズデイかすかべの開催を機に、自らもさまざまなイベントを開催するようになった。「ジャズで春日部ににぎわいをもたらそう」という男たちの夢は着実に実を結んでいる。



春日部TMOのメンバー。前列左から尾堤 宏さん、勝谷清一さん、北川房男さん、成田孝満さん、後列左から船岡克己さん、佐藤松夫さん、前澤初夫さん、山崎正雄さん。

「ドリキン」の愛称で親しまれている「ドリーム・スイング・キングダム」。

# Jazz Day

